

報告書

令和元年9月13日「グリーンパレス石岡」で開催されました「安全就業対策講習会」に出席してきました。

※安全就業スローガン 「安全は 基本動作の 積み重ね」

「安全就業除草編」と題して、放映された後に

- 1) 作業前に、現場をよく確認し最大限事故防止に努める。
- 2) 元年度（4月～6月）県内の事故発生状況報告。
 - ①損害事故 28件（内、刈払い機での草刈り事故 19件）
 - ②傷害事故 21件（内、剪定作業中の事故 9件）
 - ③事故は7月～9月に多発している（内、蜂に刺される事故 60%）

講演

講師：（一社）茨城県ペストコントロール協会 副会長 飯嶋 明友 氏

- 1) 蜂刺され予防対策と緊急時における対処法について
 - ①蜂に刺されないためには（スズメバチは、7月～11月が特に活動的）
 - *巣に近づかない。 *白いものより黒いものに反応する。
 - *匂いの強い整髪料や香水に興奮する。
 - ②万一蜂に刺されたら
 - *その場からすぐ離れる。 *決して口では吸わない。 *刺された箇所をつまみ毒を絞り出し流水でよく流す。 *すぐに病院に行く。 *一度刺されると体内に抗体ができ、再度刺されるとアレルギー反応で命にかかわることがある。
 - *アナフィラキシーの主な症状「全身のジンマシン・吐き気・嘔吐呼吸困難・倦怠感・発汗・血圧低下、その他」
- 3) マダニ（ダニ）による感染症が増えている。（ワクチンが出来ていない）
 - ①1mmくらいの大きさで葉の裏に生息。 *噛まれると潜伏期間は1～2週間。 *発熱、嘔吐下痢などの症状。
 - ②皮膚に頭を突っ込んで吸う。 *刺されたらすぐに医者に行く。
 - ③まだ、県内では発見されていないが、野生のシカについている為、野生のシカが多くいる所は注意が必要です。

報告： 安全委員会

参考：アナフィラキシーとは

アナフィラキシーとは、「アレルギー等の侵入により、複数臓器に全身性にアレルギー症状が惹起され、生命に危機を与え得る過敏反応」をいう。「アナフィラキシーに血圧低下や意識障害を伴う場合」を、アナフィラキシーショックという。

資料参照：JSA 一般社団法人 日本アレルギー学会